

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 7 月

○ 概要

- (1) 平成 30 年 7 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,121 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲1.9%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 8,849 円（伸び率▲3.6%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,582 億円（伸び率+2.2%）、薬剤料が 4,527 億円（伸び率▲3.3%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 829 億円（伸び率+5.3%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,316 円（伸び率▲5.7%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.74 種類（伸び率+0.4%）、24.9 日（伸び率+1.9%）、78 円（伸び率▲7.9%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,677 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲155 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 702 億円（伸び幅▲133 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+29 億円（総額 289 億円）であった。（→P.10~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,677 億円 (▲155 億円)	21 循環器官用薬 (702 億円)	11 中枢神経系用薬 (674 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (579 億円)
0 歳以上 5 歳未満	26.0 億円 (▲4.0 億円)	44 アレルギー用薬 (10.4 億円)	61 抗生物質製剤 (5.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	70.5 億円 (▲1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (23.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (20.5 億円)	61 抗生物質製剤 (7.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,270 億円 (▲58 億円)	11 中枢神経系用薬 (290 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (214 億円)	21 循環器官用薬 (210 億円)
65 歳以上 75 歳未満	897 億円 (▲53 億円)	21 循環器官用薬 (202 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (170 億円)	11 中枢神経系用薬 (113 億円)
75 歳以上	1,414 億円 (▲39 億円)	21 循環器官用薬 (286 億円)	11 中枢神経系用薬 (250 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (189 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,849 円（伸び率▲3.6%）で、最も高かったのは京都府（10,543 円（伸び率▲4.1%））、最も低かったのは佐賀県（7,574 円（伸び率▲4.9%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率▲0.0%）、最も低かったのは栃木県（伸び率▲5.5%）であった。（→P.31~32）

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標）注)	74.6%	+6.0%
薬剤料ベース	18.3%	+1.5%
後発品調剤率	71.6%	+4.2%
（参考）数量ベース（旧指標）	51.7%	+5.3%

注)【後発医薬品の数量】/（【後発医薬品のある先発医薬品の数量】+【後発医薬品の数量】）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+5.3%	+11.2% (70 歳以上 75 歳未満)	▲0.3% (25 歳以上 30 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3%	21.0% (0 歳以上 5 歳未満)	10.9% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	74.6%	77.7% (60 歳以上 65 歳未満)	66.0% (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	733 億円 (+35 億円)	21 循環器官用薬 (241 億円)	23 消化器官用薬 (108 億円)	11 中枢神経系用薬 (81 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.7 億円 (+0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (2.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	61 抗生物質製剤 (1.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	11.9 億円 (+1.0 億円)	44 アレルギー用薬 (6.4 億円)	61 抗生物質製剤 (2.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	243 億円 (+10 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (36 億円)	23 消化器官用薬 (30 億円)
65 歳以上 75 歳未満	185 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (76 億円)	23 消化器官用薬 (26 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (20 億円)
75 歳以上	287 億円 (+14 億円)	21 循環器官用薬 (96 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)	11 中枢神経系用薬 (32 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,198 円	1,562 円（岩手県）	1,025 円（福岡県）
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.5%	+8.9%（徳島県）	▲0.2%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	74.6%	84.7%（沖縄県）	67.0%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3%	22.3%（鹿児島県）	15.6%（京都府）
後発医薬品調剤率	71.6%	80.8%（沖縄県）	66.4%（東京都）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	51.7%	61.6%（沖縄県）	47.0%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成30年7月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。